

くだもの王国ふくしまで学ぶ 食の安心安全への取組み

あづま果樹園を訪れた生徒たちは、生産者の思いに触れ、福島自慢の果物の味に親しむ体験から福島の果樹園農家が苦況に負けず、復興に立ち向かっていることを実感していました。



① 震災講話

あづま果樹園の代表者から、風評被害により生じた果樹園内の損害や、その脱却に向けた誘客事業などの講話を聞きました。生徒たちは風評払拭や、福島の果物を守るための生産者の努力と信念を感じていました。



▲真剣に耳を傾ける生徒たち



▲質疑応答の時間も設けられた

② 果樹園視察

広大な園内をバスで移動し、季節の果物が栽培される様子や、空間線量を下げるため、土の表面を削るなどの除染作業が行われた箇所を視察しました。園内には桃や梨などが実っており、果実の甘い香りが漂っていました。



▲バス車内からの視察の様子



▲旬の果物が多数栽培される園内

③ 桃狩り体験

福島を代表する果物のひとつ、桃の収穫体験が行われました。自らの手で収穫した桃を味わった生徒たちからは「とてもみずみずしい!」「普段食べる桃より甘い!」といった感嘆の声があがり、赤く実った桃に次々と手を伸ばしていました。



▲初めての桃狩りに挑戦!



▲採れたての桃を頬張る

④ 売店・出荷場見学

売店内に展示されている復興イベントの写真や、園内で栽培された桃が県内外へと出荷される様子を見学しました。生徒たちは園内のスタッフたちに応援や感謝の声をかけるなど、積極的に交流を図っていました。



▲活気にあふれる出荷場



▲展示写真の説明を受ける

福島の桃は
甘くてとても
おいしかったです!



VOICE ふくしまへ メッセージ

大野城市中学生被災地派遣研修 団長
福岡県大野城市立大利中学校 校長
しんじょう やすお
新庄 悌男 先生

今回の研修は東北から遠く離れた福岡県に住む私たちにとって、被災地の現状を知る良い機会となりました。生徒たちには、実際に被災地を訪ねなければ知り得ない被害の実態や、復興へ向う人々の助け合い、支え合いなどの絆を感じてもらいたいです。そして今回学んだことを周囲に伝え、被害のなかった私たちがこの震災をどう受け止めるべきかを考えてほしいです。



あづま果樹園

福島市の観光果樹園や果物の直売所が多く並ぶ、通称「フルーツライン」に位置しています。さくらんぼや桃、梨、ぶどう、りんごなどを栽培しており、季節のフルーツ狩りを楽しめます。



体験所要時間 約30分～

受入れ時期 6月中旬～12月初旬

受入れ可能人数 ～200名

体験料金 季節の果物により異なります。

●アクセス情報

〒960-0231
福島県福島市飯坂町平野字西原1-13
※東北自動車道福島飯坂ICから車で約8分

【お問い合わせ先】

TEL:024-542-1460 FAX:024-542-1119

URL:<http://www.dab.hi-ho-ne.jp/aduma>

